

日蓮大聖人御書全集

ほんぞんくようごしよ

本尊供養御書

新版
1862
ゝ
1863

ほんぞんくようごしよ

本尊供養御書

けんじ

ねん

がつ

さい

なんじようへいしちろう

建治 2 年 ('76)

12 月

55 歳

南条平七郎

ほけきようごほんぞんごくよう

ごそうぜんりよう

こめいちだ

いものかしらいちだ

おく

法華経御本尊御供養の御僧膳料の米一駄・蹲鴟一駄、送

た そちら お

り給び候い畢わんぬ。

ほけきよう

もんじ

ろくまんくせんさんびやくはちじゅうしじ

いちいち

もんじ

われ

法華経の文字は六万九千三百八十四字、一々の文字は我

め

くろ

もんじ

み

そちら

ほとけ

おんまなこ

いちいち

らが目には黒き文字と見え候えども、仏の御眼には一々

みなみほとけ

たと

こんぞくおう

もう

こくおう

すな

こがね

に皆御仏なり。譬えば、金粟王と申せし国王は沙を金とな

しやくまなん

もう

ひと

いし

たま

な

たも

ぎよくせん

い

し、釈摩男と申せし人は石を珠と成し給う。玉泉に入りぬ

き るり

な

たいかい

い

みず

みなしわはゆ

しゆみせん

る木は瑠璃と成る。大海に入りぬる水は皆鹹し。須弥山に

ちか とり こんじき
近づく鳥は金色となるなり。阿伽陀薬は毒を薬となす。

ほけきよう ふしぎ
法華經の不思議もまたかくのごとし。凡夫を仏に成し給う。

かぶら うずら やま いも 鰻
蕪は鶉となり、山の芋はうなぎとなる。世間の不思議、

もつてかくのごとし。いかにいわんや法華經の御力をや。

さい つの み たい
犀の角を身に帶すれば、大海に入るに、水、身を去るこ

ごしやく せんだん もう こう み 塗
と五尺。梅檀と申す香を身にぬれば、大火に入るに焼くる

ことなし。法華經を持ちまいらせぬれば、八寒地獄の水にも

濡 はちねつじごく たいか や
ぬれず、八熱地獄の大火にも焼けず。法華經の第七に云わく

ひ や あた みず ただよ あた
「火も焼くこと能わず、水も漂わすこと能わず」等云々。事

とううんぬん こと

多しと申せども、年せまり、御使い急ぎ候えば、筆を留め

そうら お

候い畢わんぬ。

けんじにねんひのえねじゅうにがつ

にち

建治二年丙子十二月

日

にちれん
日蓮

かおう
花押

なんじようへいしちろうどのごへんじ

南条平七郎殿御返事